

❖……約80万人の話者を持つユカタン・マヤ語で書かれた現代文学＝《世界文学》を、本邦で初めて本格的に紹介。

❖……マヤの先住民の風土や文化を物語に織り込みつつも、一歩その枠組みから抜け出した、「いま」にふさわしい21世紀以降の優れた作品を厳選。

❖……収録作品は全て本邦初訳。

❖……南北アメリカ先住民文学賞、ネサワルコヨトル賞をはじめ、国内外の数々の賞を受賞し世界的な脚光を浴びるソル・ケー・モオやホルヘ・ミゲル・ココム・ベッチなど、現代マヤ文学を代表する豪華作家陣の作品を収載。

❖……クラフト・エヴィング商会（吉田浩美・吉田篤弘）による描き下ろし装画&装幀。



四六変型判 (178mm×128mm)

上製・カバー装

各巻：本体 2,400円＋税

内容・価格等は変更となる可能性があります。

国書刊行会

〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15

TEL. 03-5970-7421 FAX. 03-5970-7427

<https://www.kokusho.co.jp>

e-mail: info@kokusho.co.jp



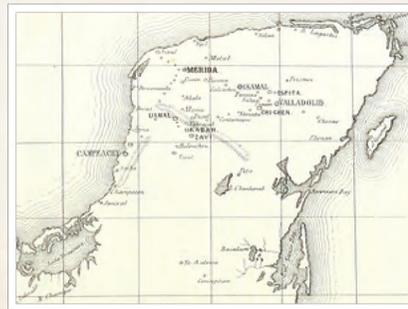
ユカタン・マヤの地から贈る、

21世紀の新しいラテンアメリカ文学シリーズ

新しいマヤの文学

全3冊

吉田栄人＝編訳



国書刊行会

われわれが失って久しい世界

木村榮一（神戸市外国語大学名誉教授）

今から一万数千年前、われわれの先祖にあたるモンゴロイドの一部が、ユーラシア大陸から陸続きだったベーリング海峡を越えてアメリカ大陸に移り住んだ。当時はまだ人間の住んでいなかった大陸に渡ったモンゴロイドたちは、各地で独自の文明を生み出していったが、その一支流であるマヤ人は紀元前十世紀ごろから長期間にわたってメキシコ南部のユカタン半島を中心にすぐれた文明社会を築き上げた。

特異な宇宙観と神話体系、独自の暦、さらには高度な技術力をうかがわせる石像や神殿などを生み出したマヤ人は、紀元前千年ごろから中米のあちこちに多くの都市を作り出した。しかし、十六世紀以後はスペインによる植民地支配を受け、ジャングルの奥に逃げ込んだ一部の人たちを除いて、マヤ人はキリスト教世界に組み込まれていく。それでも、彼らは独自の世界観を生き続けてきた。

近年、多分にアニミズム的な世界に生きる、そのマヤ人の末裔が、自分たちの言葉で貧しく苛酷な日々の暮らしやそこから生じる苦しみ、あるいはそんな中にあっても人を愛し、いつくしむ心を自らの言葉で語るようになった。われわれが失って久しい世界についての彼らの貴重な証言が、文学作品としてここに邦訳されたことは快挙と言っている。訳者の吉田栄人氏によれば、ここに紹介されている作品は作者がマヤ語で書き上げ、それを自らスペイン語に訳して出版したとのことである。スペイン語とマヤ語に通暁している吉田氏の手になるこれらの美しい訳書を通して、われわれもまた中米の密林に生きる古代文明の末裔たちの生の声に耳を傾け、彼らの世界に思いをはせることができるようになったのはまことに喜ばしい。

マヤ文学とは何か？

メキシコのユカタン・マヤの地で生まれた、マヤ語で書かれた現代文学。これまでほとんど紹介のなかった、代表的なマヤ文学の書き手たちによる作品を厳選、《世界文学》志向の現代小説、マヤの呪術的世界観を反映したファンタジー、マジックリアリズム的な味わいの幻想小説集を、日本の読者に向けて初めて紹介する、全く新しいラテンアメリカ文学シリーズ、ついに刊行開始！

【シリーズ編訳】

吉田栄人（よしだ じげと）

1960年、熊本県天草生まれ。東北大学大学院国際文化研究科准教授。専攻はラテンアメリカ民族学、とりわけユカタン・マヤ社会の祭礼や儀礼、伝統医療、言語、文学などに関する研究。ソル・ケー・モオ『穢れなき太陽』（水声社、2018年）で2019年度日本翻訳家協会賞・翻訳特別賞を受賞。

〈新しいマヤの文学〉
シリーズ特設ページはこちら



21世紀ラテンアメリカ・フェミニズム小説の最高傑作



Sol Ceh Moo / Chéen tumeen x chu'upen
2015 / CONACULTA

女であるだけで

ソル・ケー・モオ

メキシコのある静かな村で起きた衝撃的な夫殺し事件。その背後に浮かび上がってきたのは、おそろしく理不尽で困難な事実の数々だった……先住民女性の夫殺しと恩赦を法廷劇的に描いた、《世界文学》志向の新しい現代ラテンアメリカ文学×フェミニズム小説。

解説＝フェリペ・エルナンデス・デ・ラ・クルス

ISBN978-4-336-06565-0
2020年2月刊行

少年は、鳥や風、言葉の秘密を知る。そして大人になる――



Jorge Miguel Cocom Pech / El abuelo Gregorio, un sabio maya
2012 / CONACULTA

言葉の守り人

ホルヘ・ミゲル・ココム・ペッチ

「ぼく」は《言葉の守り人》になるために、おじいさんとともに夜の森の奥へ修行に出かける。不思議な鳥たちとの邂逅、風の精霊の召喚儀式、蛇神の夢と幻影の試練……呪術の世界で少年が受ける通過儀礼と成長を描く、珠玉のラテンアメリカ・ファンタジー。

挿画＝エンリケ・トラルバ

ISBN978-4-336-06566-7
2020年4月刊行

夢想的・寓話的なマジックリアリズム中編連作集



夜の舞・解毒草

吉田栄人＝編訳

Isaac Esau Carrillo Can / U yóok'otiló'ob áak'ab
2011 / CONACULTA

「夜の舞」

イサク・エサウ・カリージョ・カン

Ana Patricia Martínez Huchim / U yóol xkaambal jaw
xíiw / 2013 / SEDECULTA

「解毒草」

アナ・パトリシア・マルティネス・フチン

薄幸な少女フロールが、不思議な女《小夜》とともに父探しの旅に出る夢想的作品「夜の舞」と、死んだ女たちの靈魂が語る苦難に満ちた宿命と生活をペーソスとともに寓話的に描く「解毒草」の中編2作品を収録した、マジックリアリズム的マヤ幻想小説集。

ISBN978-4-336-06567-4
2020年5月刊行